

# 発刊の辞

副学長 金 勝 久

昭和58年4月、城西大学女子短期大学部は、念願通り、二学科四課程の創設を許可された。二学科四課程の内容は次の通りである。

経営学科	—	経営実務課程	定員50名
		秘書課程	“
文学科	—	日本文学課程	定員50名
		英米文学課程	“

規模は総定員200名という訳で、未だ極めて小さい短大であります。 「国際感覚に富んだ良識ある女性の教育」という建学精神がそのまま生かされて認可をいただいたことは誠に同慶の至りであります。

さて、大学の教育は、優秀な教授陣と、教育設備の完備がなければ目的を遂行することはできません。幸い、校舎の方は設置規準をやや上廻る立派な六階建てが新築されたし、設備は、タイプライター、パソコンはじめ必要な備品を全部そろえることができましたことは嬉しい限りでありまして、厚く当局に感謝する次第であります。次に、最も大切な教授陣につきましては、各専門領域における一流中の一流の俊英に多数御協力を賜わることができましたことは短大の将来のために本当に喜ばしいことと思えます。

ところで、今、一番必要なことは、この優秀なる教授陣の各人が、ひたすら、教育と研究に専念していただくことであります。

その意味で、本学は、直ちに「紀要」の発行を計画致しました。最初は二学科である関係上、「経営学」と「文学」の二本だてによる分冊発行を考えたのですが、一つは、創刊号であることと、第二には、教養課程のカリキュラムとして、人文・社会・自然の三分野にそれぞれ文化論(1)、(2)、(3)の学際的総合研究を配置して、教養と専門の有機的連絡を企図した関係から、本巻は合本の形式になってしまいました。

なお、創刊号発行に際し、一番心配したことは、この種の論文の性質上、準備や執筆の期間が少なすぎるのではないかという問題でありましたが、締切日の9月10日には、予想外に多くの応募原稿が集ったことを知り、一応この問題は解決したことになりましたが、逆に、予算や紙数の関係から、掲載原稿を厳選しなければならぬという新たな悩みに遭遇致しました。

結局、厳選に厳選を重ね、12篇を掲載することになりましたが、その間における編集委員の御苦勞に対しては心から感謝致します。

最後に、選に洩れた原稿の執筆者に対しては、一層の研讃を積まれ、次の機会に立派な論文を完成されんことを御願いすると共に、所載の諸論文については、いろいろと御批判もあると思いますから、執筆者みづからが中心となり、検討会をもたれることを切望致します。

昭和58年12月1日